

*** 屋根板が吹っ飛んだ写真天頂筒 (PZT) の建屋**

アーカイブ室新聞第237号に「PZTの屋根が開いた」(2009年10月7日発行)、第238号に「PZT(写真天頂筒)移設の大工事」(2009年10月15日発行)、第239号「移設、復元なったPZT(写真天頂筒)、そして展示」(2009年10月20日発行)、第240号に「PZT(写真天頂筒)、その創意工夫」(2009年10月20日発行)と写真天頂筒(PZT)の天文機器資料館への移設記事を書いた。

写真天頂筒(PZT)の観測建屋は老朽化がひどく朽ち果てようとしていたので、天文機器資料館に移設し復元展示を行ったのである。観測に使われていた頃の写真天頂筒(PZT)の様子が写真1である。

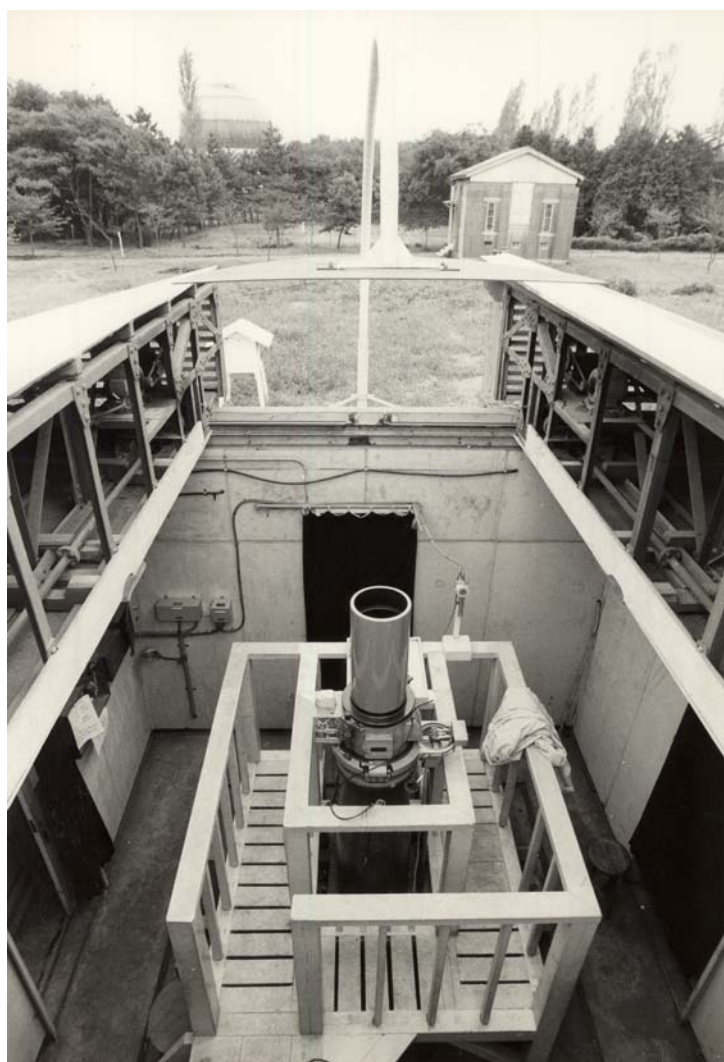


写真1 観測に使われていた頃のPZT

写真天頂筒（PZT）は故虎尾教授の手によって戦前（昭和 15 年（1940 年）頃）から開発を手がけられ、昭和 26 年（1951 年）頃に 2 号機を造り、その結果に基づく本格的設計により、ついに昭和 28 年には最終機（写真 1）が完成し、日本の時刻決定の観測が続けられたが、より精度を要求する時刻決定の要求には応えられなくなり、電波を使った VLBI 観測に取って代われ、昭和 63 年（1988 年）にはその使命を終えていた。

その後、20 年以上観測に使われることはなく、放置され荒れるにまかされ、建屋も老朽化していた状態が写真 2 である。



写真 2 中の写真天頂筒（PZT）移設前の建屋

写真 2 でわかるように、観測棟本体はまだ無事であったが、近くの百葉箱の痛みから荒れ方が見て取れる。PZT を移設中の様子が写真 3 である。



写真 3 PZT 移設の様子

2010年4月になって、春の嵐が吹き荒れ、この老朽化した写真天頂筒（PZT）の建屋の屋根板が吹き飛んでしまった（写真4）。



写真4 屋根板が吹き飛んだPZT建屋の屋根



写真5 写真4の反対側の屋根の拡大写真

春の嵐で写真4、5のようにPZT建屋の屋根板はほぼ吹き飛ばされてしまった。吹き飛ばされた屋根板のほとんどは片付けられていたが何枚かは近くに残っていた（写真6）。



写真6 吹き飛ばされた屋根板

この屋根板が吹き飛んでしまった様子を見て、昨年秋にこの写真天頂筒（PZT）を移設しておいたのは大正解であったと今更思うのである。この春の嵐の風速は台風並みの強さで、あちこちで被害が出たとテレビ、新聞で報道された。天文台構内でも太い木が途中からぼ

っきり折れているものが見受けられた。このような何度かの強風で天文台構内にあったポプラ並木はほぼ全滅してしまった。筆者が撮影したこの春の嵐による天文台構内の倒木の様子が写真7である。



写真7 春の嵐による天文台構内の倒木